vinetur

EUのワイン輸出額、6.8%減の154億ユーロ

米国向け販売額は15.3%減少。低価格帯のバルクワインより、瓶詰めワインとスパークリングワインの落ち込みが大きかった

2026年11月16日（月）



Legacoop Agroalimentareが公表した数値によると、2025年9月から2026年8月までのEU域外へのワイン輸出額は6.8%減の154億ユーロとなった。この数値は11月13日、ブリュッセルで開かれたCopa-Cogecaのワイン会合で示された。輸出量も3.3%減の2,750万ヘクトリットルとなり、収穫量の減少、需要の低迷、高水準の在庫に直面する業界の厳しい状況を示す結果となった。

データからは、EUのワイン市場に広く圧力がかかっており、主要な輸出先のいくつかで明確な減少が見られる。対象期間中、米国向けの販売額は15.3%減少し、カナダ向けは11%、スイス向けは9.2%、英国向けは3.9%減った。一方、ロシア向けは17.5%、香港向けは10.9%増加したものの、こうした伸びでは、規模の大きい従来の主要市場での落ち込みを補えなかった。

貿易データは、海外で販売される製品構成にも変化があったことを示した。バルクワインの輸出

は5％増加し、バッグ・イン・ボックスの出荷は3.4％増えた。瓶詰めワインの輸出は7.5％減、スパークリングワインは6.2％減となった。高付加価値のパッケージ商品が低迷する一方、より低価格な形態は比較的堅調だったことがうかがえる。

飲料企業にとって、主要輸出市場での落ち込みは、世界最大のワイン輸出地域における市場構成や価格設定、在庫管理を見直す圧力を強める可能性がある。主要市場で需要の伸びが鈍るなか、生産者は供給とのバランスをどう取るかについて、より難しい判断を迫られることも考えられる。

EUの2026/27年度のワイン・ブドウ果汁生産量は、前回の収穫期を4％、過去5年平均を約8％下回ると推計された。Copa-Cogecaの数値は、各国の統計当局による確認を待つため、今後修正される可能性がある。これらの数値は、Legacoop Agroalimentare会長のCristian Maretti氏と、同団体のワイン部門責任者Valentina Sourin氏が出席した会合で議論された。Legacoopによると、参加者はEU共通農業政策の今後、業界予算、共同出資の規則、支援策の範囲、そして自然な低アルコールワインについても協議した。

イタリア、スペイン、フランスは引き続きEUの主要生産国で、合計で総生産量の約82％を占めた。しかし、複数の地域では再び天候不順が生産に影響した。各団体によると、干ばつ、熱波、春の霜、ひょうにより、EU域内の一部で収量が減少した。収穫量の減少にもかかわらず、市場の圧力は和らいでいない。消費の低迷、価格の下落、依然として高い在庫が重なっているためだ。

世界のワイン消費量は2億2,100万ヘクトリットルと推計され、30年以上で最低の水準となった。ブリュッセルで示された数値によると、世界のワイン消費に占めるEUの割合も、2000年の約60％から現在は48％に縮小している。赤ワイン、ロゼワイン、ベーシックワインが、最も影響を受けやすい分野とされた。

イタリアは4,110万ヘクトリットルで、引き続き世界最大のワイン生産国と推計された。ただし、この数値は2025年比で7.6％減、過去5年平均を約10％下回る。干ばつと高温に見舞われた南部地域で減少幅が最も大きく、シチリア州とアブルッツォ州が特に厳しい状況にある。

スペインの生産量は3％増の3,450万ヘクトリットルと推計されたが、低価格がブドウ畑の収益性を引き続き圧迫している。フランスの生産量は3,380万ヘクトリットルと予想され、2025年比で2％減、過去5年平均を約15％下回る。同国では大規模なブドウ畑の撤去計画も続いている。

Copa-Cogecaのワーキンググループでワイン部門の議長を務めるLuca Rigotti氏は、業界にはイノベーション、持続可能性、品質への投資に加え、製品の多様化と新市場へのアクセス拡大が必要だと述べた。ブリュッセルでの議論では、生産者がより実効性の高い市場管理手段を得る方法や、ますます不安定化する気候条件と弱含む販売環境に適応するために十分な支援を確保する方法にも焦点が当てられた。